

2Qa-1 女子短大生のライフスタイルとファッション行動によるクラスター化とその特徴

県立島根女短大 ○藤井一枝 大阪女短大 山口恵子

目的 '90年代に入ってファッションはますます個性化、多様化傾向を示し、個々のファッションスタイルは自らの価値観、生活目標に基づいて決められ、自己表現、コミュニケーションの手段となっている。そこで、女子短大生のライフスタイルとファッション行動によりクラスター化を試み、タイプ別ファッション行動の特徴について検討した。

方法 島根と大阪の女子短大生326名を対象にアンケート調査を行った。主な調査内容は、小遣い、アルバイト、異性の友人、洋服代、化粧品、アクセサリ、流行の採用など合わせて28項目である。このうち、11項目を選んでクラスター分析を行った。

結果 女子短大生はA～Eの5つのタイプに分類された。Aは小遣いをアルバイトで稼いで洋服代に高額を費やすタイプ、BはAほど洋服代は高額でないが、ファッションに関心があり、流行を取り入れるタイプ、Cはおしゃれではないが、友人の服装などが気になるタイプ、Dはアルバイトで小遣いは多いが、おしゃれに無頓着なタイプ、Eは小遣い、洋服代とも少なく、おしゃれを好まないタイプである。Eタイプは全体で5.9%と少ない。大阪はAタイプが50.0%に対し、島根はBタイプ29.9%、Aタイプ24.3%で地域差がみられた。さらに各タイプ別にライフスタイルとファッション行動の特徴を明らかにした。